

- (1) 正解③: 本当のことを言うには、ときには大きな勇気が必要である。

[解説] この問題は**不定詞の名詞的用法(主語)**を問う問題です。To tell the truth が文全体の主語となり、「本当のことを言うこと」という意味になるため、③ To tell が正解です。① Tell は命令文、② Telling は動名詞でも文法上可能ですが、この教材では不定詞の名詞的用法を問う問題です。④ Told は過去分詞で主語にはなれません。To do が主語となる形は大学入試で頻出なので、語順ごと覚えておきましょう。

- (2) 正解②: 最も大切なことは、たとえ難しくても本当のことを言うことである。

[解説] この問題は**不定詞の名詞的用法(補語)**を問う問題です。The most important thing is to tell the truth が「最も大切なことは本当のことを言うことだ」という意味になるため、② to tell が正解です。① tell は原形、③ telling は動名詞、④ who tells は関係節であり、この文型には適しません。S is to do の形で不定詞が補語になる用法は基本事項として確実に身につけましょう。

- (3) 正解③: 私の夢は、大学卒業後に世界中を旅行することである。

[解説] この問題は**不定詞の名詞的用法(補語)**を問う問題です。My dream is to travel around the world が自然な表現となるため、③ to travel が正解です。① travel は原形、② traveled は過去形・過去分詞、④ traveling は動名詞であり、この問題では不定詞の補語を求めています。dream・goal・plan・hope などの名詞の後には、不定詞が補語として用いられることをまとめて覚えておきましょう。

- (4) 正解③: 私たちは悪天候のため、会議を来週の金曜日まで延期することに決めた。

[解説] この問題は不定詞を目的語に取る動詞を問う問題です。decide to postpone が「延期することを決める」という意味になるため、③ to postpone が正解です。① postpone、② postponing、④ postponed は decide の目的語にはなりません。decide・want・hope・plan・promise などは to 不定詞 を目的語に取る代表的な動詞です。語法ごとまとめて覚えておきましょう。

- (5) 正解③: 時間どおりに駅へ着くことは、あなたにとって重要である。

[解説] この問題は形式主語 It と不定詞の用法を問う問題です。It is important for you to arrive が「あなたが到着することは重要だ」という意味になるため、③ to arrive が正解です。① arrive、② arriving、④ arrived は It is 形容詞 for A の後ろには置けません。It is 形容詞 for A to do は大学入試で最も重要な形式主語構文の一つです。語順ごと確実に覚えておきましょう。

- (6) 正解③: 大雪のため、その山頂に到達することは不可能だった。

[解説] この問題は形式主語 It と不定詞の基本形を問う問題です。It was impossible to reach が「到達することは不可能だった」という意味になるため、③ to reach が正解です。① reach、② reaching、④ reached はこの構文には用いられません。It is possible to do、It is difficult to do、It is impossible to do などは入試頻出表現です。形容詞とともにまとめて覚えておきましょう。

- (7) 正解③: インターネット上の情報が信頼できるかどうかを判断することは、必ずしも容易ではない。
 [解説]この問題は形式主語 It を問う問題です。真の主語は後ろの to determine ... であり、その代わりとして It を文頭に置くため、③ It が正解です。① That、② There、④ What では形式主語にはなりません。It is easy to do、It is difficult to do などの構文は英文読解でも頻出です。形式主語と真の主語の関係を理解しておきましょう。
- (8) 正解②: 私たちは、助けなしでその問題を解くことは難しいと分かった。
 [解説]この問題は形式目的語 it の用法を問う問題です。found it difficult to solve が「～することは難しいと分かった」という形になるため、② it が正解です。① that は接続詞、③ one、④ there は形式目的語にはなれません。find・think・consider・make などの後ろでは it + 形容詞 + to do の形が非常によく用いられます。語順ごと覚えておきましょう。
- (9) 正解③: 多くの生徒は、毎日学んだことを復習することが重要だと考えている。
 [解説]この問題は形式目的語 it と不定詞を組み合わせた構文を問う問題です。consider it important to review が「復習することは重要だと考える」という意味になるため、③ to review が正解です。① review、② reviewing、④ reviewed はこの構文では用いられません。consider it important to do は大学入試で頻出の重要構文です。語順をそのまま暗記しておきましょう。
- (10) 正解③: 新しい技術によって、多くの人がこれまで以上に効率よく自宅で働くことが可能になった。
 [解説]この問題は形式目的語 it を用いた make it possible for A to do の構文を問う問題です。made it possible for many people to work が正しい形となるため、③ to work が正解です。① work、② working、④ worked は possible for A の後ろには続けられません。make it possible for A to do は「A が～することを可能にする」という大学入試最頻出構文の一つです。語順ごと確実に身につけましょう。
- (11) 正解②: マイクは生まれて初めて、何をすればよいかわかりませんでした。
 [解説]疑問詞 + to 不定詞は「何を～すべきか」「どのように～するか」という意味を表します。この文では what to do が didn't know の目的語となり、「何をすべきかわからなかった」という意味になります。① do は疑問詞の後に原形だけを置くことはできません。③ done は過去分詞です。④ doing は動名詞・現在分詞で文法的に誤りです。what to do は what he should do に書き換えられる重要表現です。
- (12) 正解③: 彼は車の運転の仕方を知りません。
 [解説]この文も 疑問詞 + to 不定詞を用いた表現です。「どのように運転するか」という意味なので、how to drive が正しい形になります。① which は「どちらを」という意味で、この文には合いません。② what は「何を」という意味になるため不自然です。④ that は疑問詞ではないので that to drive という形は作れません。how to do は how he can do に書き換えられる頻出表現なので、必ず身につけておきましょう。
- (13) 正解③: 英語を上手に学ぶうえで最も難しいことの一つは、いつ "sorry" と言うべきかを知ることです。

[解説]この文は 疑問詞+to 不定詞 の用法を問う問題です。knowing の目的語として when to say(いつ言うべきか)が続いています。「いつ言うか」という内容を表すため、不定詞 to say が必要です。① say は疑問詞の後に原形だけを置くことはできません。② is said は受動態となり意味が合いません。④ said は過去形・過去分詞で文法的に誤りです。when to do=when S should do と書き換えられることも重要です。

- (14) 正解②:問題は、どちらを選ぶべきかということです。

[解説]この文も 疑問詞+to 不定詞 の表現です。補語として which to choose が入り、「どちらを選ぶべきか」という意味になります。① choose は疑問詞の後に原形だけでは続きません。③ choosing は動名詞・現在分詞で、この構文では用いません。④ chosen は過去分詞で意味が成立しません。which to do は which one we should choose のような節に書き換えられる重要表現です。

- (15) 正解③:南極に最初に到達した人はだれですか。

[解説]この文は不定詞の形容詞的用法です。不定詞 to reach が the first person を後ろから修飾し、「最初に到達した人」という意味になります。序数詞や first・last・next・only の後ろには不定詞がよく用いられます。① reach は名詞を修飾できません。② reached は過去形・過去分詞で意味が異なります。④ who reaches も文法的には可能ですが、この問題は不定詞による後置修飾を問うものです。したがって to reach が正解です。

- (16) 正解③:私は上司に車を貸してほしいと頼む勇気がありません。

[解説]この文では the courage to do の形になっています。不定詞 to ask が the courage を後ろから修飾し、「～する勇気」という意味を表しています。① asking は動名詞で、この位置では名詞を修飾できません。② for asking は前置詞を補っても文法的に不自然です。④ which I ask では「私が頼む勇気」という意味にならず内容も不自然です。「～する勇気・機会・能力」などは 名詞+to do の形で覚えておきましょう。

- (17) 正解②:今それをする時間がありません。またあとでにします。

[解説]この文も 名詞+to 不定詞 の形容詞的用法です。to do が time を修飾して「～するための時間」という意味になります。② to do が正しい形です。① to be doing は進行形不定詞で、この文では不要です。③ to doing は文法的に誤りです。④ to have done は完了不定詞で「すでにしたこと」を表すため意味が合いません。have time to do は「～する時間がある」という頻出表現です。

- (18) 正解③:今日の会議で話し合われる予定の問題は、その計画を来月まで延期すべきかどうかです。

[解説]この文では the question to be discussed の形になっています。問題は「これから話し合われる」ものであり、さらに question は「話し合われる側」なので、未来の意味と受動の意味を合わせた to be discussed が必要です。① discussing は能動です。② is discussed では名詞を修飾できません。④ to be discussing は進行形となり意味が合いません。「これから～される予定の名詞」は to be+過去分詞 を用います。

- (19) 正解②:速度を測る方法はいくつかあります。

[解説]この文は ways to do の形です。不定詞 to measure が ways を後ろから修飾し、「速度を測る方法」という意味になります。① measure は原形だけでは名詞を修飾できません。③ measuring は現在分詞・動名詞で、この位置では適切ではありません。④ for measure は前置詞の使い方が誤りです。way(s) to do は「～する方法」という非常によく使われる表現なので、まとめて覚えておきましょう。

- (20) 正解③:何か書くものを貸してくれませんか。ペンを持っていないのです。

[解説]この問題は不定詞の形容詞用法と、動詞と前置詞の組み合わせを問う問題です。write with ～ は「～を使って書く」という意味なので、something to write with(書くための物)が自然な表現となり、③が正解です。①は with がないため「何で書くのか」が表せず不完全です。② write on は「紙・黒板などの上に書く」、④ write for は「～のために書く」で文意に合いません。不定詞の形容詞用法では、動詞が前置詞を伴う場合は前置詞まで含めて残すことが重要です。sit on、deal with、complain about などと同じ考え方で頻出です。

- (21) 正解③:私が座るものは何かありますか。

[解説]この問題は不定詞の形容詞用法と**意味上の主語(for+目的格)**を問う問題です。anything for me to sit on は「私が座るためのもの」という意味になるため、③が正解です。①は for I とならず、for の後は目的格 me を用います。②④は動名詞を用いており、不定詞の形容詞用法になっていません。また、sit は自動詞なので on を省略できない点も重要です。sleep in、write with、stand on などと同様に、前置詞まで含めて覚えましょう。

- (22) 正解③:私たちには取り組まなければならない問題がたくさんある。

[解説]この問題は不定詞の形容詞用法と句動詞を問う問題です。deal with は「～に対処する」という熟語であり、problems to deal with が正しい表現なので③が正解です。①は with が抜けているため目的語との関係が成立しません。②は動名詞で形容詞用法ではなく、④は受動態の形が不完全です。look after、agree with、depend on のように前置詞を伴う動詞は、不定詞でも前置詞を省略できないことを確認しましょう。

- (28) 正解③:彼女は、ジョンはその知らせを聞いてとてもうれしに違いないと言った。

[解説]この問題は**不定詞の副詞用法(感情の原因)**を問う問題です。be glad to hear the news は「その知らせを聞いてうれしい」という意味になるため、③が正解です。①は to の後に動名詞を置いており誤りです。②は所有格を用いた動名詞で文意に合わず、④ having heard from は「～から便りをもらう」という意味になってしまいます。glad・happy・pleased・sorry+to do は感情の原因を表す重要表現です。

- (29) 正解②:長い間お待たせして申し訳ありません。電車が1時間遅れました。

[解説]この問題は完了不定詞を問う問題です。「待たせた」のは「申し訳ないと思う」時点より前の出来事なので、to have kept を用いる②が正解です。① while、④ that では文が成立せず、③ to make は「待たせることを申し訳なく思う」という未来的な意味になり文意に合いません。be sorry to have done は「～してしまって申し訳ない」という定番表現として覚えましょう。

- (30) 正解②:彼はたった5分でそんな難しい問題を解くなんて、きっと天才に違いない。

[解説]この問題は**「形容詞+to 不定詞」が判断の根拠を表す用法**を問う問題です。must be a genius to solve ... は「そんな難問を解けるとは天才に違いない」という意味になるため、② to solve が正解です。① solves、③ who solved、④ solving では「判断の根拠」を表すことができません。be+形容詞+to do が「～するとは…だ」という判断・評価を表す重要構文であることを、語順ごと覚えておきましょう。

- (31) 正解③:助けもなく明日までにその計画を終えるなんて言うとは、彼女が本気だとは思えない。

[解説]この問題は**「形容詞+現在分詞」が判断の根拠を表す用法**を問う問題です。can't be serious saying ... は「そんなことを言うとは本気とは思えない」という意味になるため、③ saying が正解です。① to say は目的を表す形になり、② who says は関係節となって文意が不自然です。④ because saying も接続詞の使い方が誤っています。serious, foolish, crazy などの形容詞と現在分詞を組み合わせた表現も入試でよく出題されます。

- (32) 正解④:アンの悲惨な事故の話は、聞くのがつらかった。

[解説]この問題は**tough 構文(形容詞+to 不定詞)**を問う問題です。be painful to listen to は「聞くのがつらい」という意味になるため、④ to listen to が正解です。listen は自動詞なので前置詞 to が必要です。① of listening、② to be listened、③ to have listened to はいずれも文意・文法の両面で不適切です。easy to read や difficult to understand と同様、目的語が主語になる構文として整理して覚えておきましょう。

- (33) 正解②:メアリーと一緒に仕事がしやすい人だ。

[解説]この問題は tough 構文の基本形を問う問題です。easy to work with は「一緒に仕事がしやすい」という意味になるため、② to work with が正解です。work は自動詞なので with が必要です。③ to work with her は her が重複し、④ to work with you は意味が変わってしまいます。① to work は前置詞が不足しています。自動詞の場合は必要な前置詞を忘れないことが重要です。

- (34) 正解②:この問題は解くのが簡単だ。

[解説]この問題は tough 構文の語法を問う問題です。easy to solve が「解くのが簡単だ」という意味になるため、② solve が正解です。① solve it は主語 This problem と it が重複しています。③ be solved は受動態となり文意が不自然で、④ solution は名詞なので文法的に誤りです。easy to solve のように、目的語は主語が兼ねることを確実に理解しておきましょう。

- (35) 正解②:この川は7月に泳ぐには危険だ。

[解説]この問題は tough 構文と自動詞の語法を問う問題です。dangerous to swim in が「泳ぐには危険だ」という意味になるため、② swim in が正解です。swim は自動詞なので、場所を表す in が必要になります。① being swum、③ swim it、④ swimming はいずれも文法的に誤りです。自動詞を用いる tough 構文では、必要な前置詞を補うことを忘れないようにしましょう。

- (36) 正解④:ええ、大統領がとても話しかけやすい人だったので驚きました。

[解説]この問題は tough 構文と自動詞の語法を問う問題です。easy to talk to は「話しかけやすい」という意味になるため、④ to talk to が正解です。talk は自動詞なので to が必要です。① for talking、② talking to、③ to talk はいずれも語法が誤っています。easy to speak to、easy to get along with などと同じタイプの頻出表現なので、まとめて覚えておきましょう。

- (37) 正解②:この町は住むには暮らしにくい。

[解説]この問題は tough 構文を問う問題です。hard to live in は「住むのが難しい」という意味になるため、② to live in が正解です。live は自動詞なので in が必要です。① living in は不定詞ではなく、③ to live in it は it が主語と重複します。④は構文自体が異なります。live in・work at・sleep on など、自動詞＋前置詞の組み合わせは頻出事項です。

- (38) 正解②:日本の若者の中には、箸は食べ物をつかむのが簡単だと感じていない人もいる。

[解説]この問題は tough 構文と前置詞の語法を問う問題です。easy to pick up food with が「箸で食べ物をつかみやすい」という意味になるため、②が正解です。①は with が不足し、③・④は it が主語 chopsticks と重複しています。道具を表す場合には with を用いることが重要です。主語が目的語を兼ねるため、代名詞を重ねないことも重要なポイントです。

- (39) 正解④:grow up → grow

[解説]この問題は tough 構文における句動詞の語法を問う問題です。grow は「育てる・栽培する」という意味の他動詞であり、easy to grow が正しい表現です。一方、grow up は「成長する」という自動詞句なので、この文では意味が成立しません。そのため④が誤りです。①～③は文法的に正しい表現です。grow と grow up の意味・品詞の違いは大学入試でも頻繁に問われるため、区別して覚えておきましょう。

- (40) 正解②:彼の祖父は 92 歳まで生き、多年にわたってその会社の社長を務めた。

[解説]この問題は**不定詞の副詞用法(結果)**を問う問題です。live to be ～ は「生きて～歳になる」という結果を表す慣用表現なので、② to be が正解です。① being は結果を表せず、③ for being は文法的に不自然です。④ till he would be も would の使い方が誤っています。live to be、grow up to be、wake to see は結果を表す重要表現であり、目的を表す不定詞との違いを区別して覚えましょう。

- (41) 正解②:翌朝目を覚ますと、窓の下では果樹が花を咲かせていた。

[解説]この問題は**不定詞の副詞用法(結果)**を問う問題です。wake to see ～ は「目を覚ますと～が見えた」という結果を表す表現なので、② to see が正解です。① and see は接続詞だけでは自然な構文にならず、③ seeing は「見ながら」という分詞構文の意味になってしまいます。④ with seeing という表現も用いられません。wake to find、return home to discover、live to see などと同じく結果を表す不定詞の重要表現です。目的を表す不定詞や only to do との違いも整理して覚えておきましょう。

- (41) 正解②:翌朝目を覚ますと、窓の下では果樹が花を咲かせていた。

[解説]この問題は**不定詞の副詞用法(結果)**を問う問題です。wake to see ～ は「目を

覚ますと～が見えた」という結果を表す表現なので、② to see が正解です。① and see は接続詞だけでは自然な構文になりません。③ seeing は「見ながら」という同時動作を表す分詞となり、結果の意味になりません。④ with seeing という形も英語では用いられません。wake to find、return home to discover、live to see などと同じ結果用法の代表例です。目的を表す不定詞や only to do と区別できるように整理して覚えましょう。

- (42) 正解③:彼は成長して、とても信頼できる人物になった。

[解説]この問題は結果を表す不定詞を問う問題です。grow up to be ～ は「成長して～になる」という結果を表す慣用表現なので、③ to be が正解です。① so that は接続詞なので後ろに節が必要です。② so as to、④ in order to be はどちらも目的「～するために」を表す表現であり、「成長した結果」を表すこの文には適しません。live to be、wake to see とともに、結果を表す不定詞の代表表現としてまとめて覚えておくことが重要です。

- (43) 正解③:雨の中あなたの家へ行ったが、留守だとわかった。

[解説]この問題は only to do が表す意外・逆接的結果を問う問題です。only to find は「しかし結局～だった」「～したものの結局…だった」という期待に反する結果を表すため、③が正解です。① as to は「～に関して」、② enough to は程度、④ so to はいずれも文法・意味の両面で適しません。only to discover、only to learn、only to realize など頻出表現なので、まとめて覚えておきましょう。

- (44) 正解③:カエサルは町に入ったが、敵はすでに逃げ去っていたことがわかった。

[解説]この問題も only to do の用法を問う問題です。entered the town only to find は「町へ入ったが、結局～だった」という予想外の結果を表すため、③ only to find が正解です。① of finding は文法的に誤り、② found は前後を正しくつなげられません。④ only to be found は「発見される」という受動の意味になり、文意が変わります。only to do は失望や意外な結末を表す重要構文です。

- (45) 正解④:彼は一生懸命勉強したが、結局試験に落ちた。

[解説]この問題は only to do が表す逆接的結果を問う問題です。努力したにもかかわらず失敗したという内容なので、④ only to が正解です。① but、② but when は文法的につながらず、③ and では単なる順接となり、「期待に反する結果」という意味が表せません。only to fail、only to lose、only to discover は大学入試でも頻出する表現です。目的を表す不定詞との違いを確実に理解しておきましょう。

- (46) 正解②:私はわざわざ医者に会いに行ったが、医者は留守だった。

[解説]この問題は only to do が表す意外・逆接的結果を問う問題です。only to find は「せっかく～したのに結局…だった」という期待に反する結果を表すため、②が正解です。① about to は「今にも～しようとして」、③ enough to は程度、④ as to は「～について」という意味で、いずれも文意に合いません。only to discover、only to realize など同じ用法なので、目的を表す不定詞との違いを理解しておきましょう。

- (47) 正解④:only find → only to find

[解説]この問題は only to do の正しい形を問う誤文訂正問題です。only の後には結果を表

す to 不定詞を用いるため、④は only to find としなければなりません。① made、② their way、③ through the trees はいずれも正しい表現です。make one's way は「進む」という重要熟語であり、only to do は「結局～だった」という予想外の結果を表す構文として頻出です。

- (48) 正解③:英語力を伸ばすために、彼女は毎日英語のポッドキャストを聞いている。

[解説]この問題は**文頭の不定詞(目的)**を問う問題です。To improve her English は「英語力を伸ばすために」という目的を表すため、③が正解です。① Improving は動名詞・分詞となり意味が変わります。② For improve は文法的に誤りで、④ Improve は命令文になります。文頭の To do は「～するために」と訳せる代表的な副詞用法なので、名詞用法との違いも整理しておきましょう。

- (49) 正解③:よい医師になるためには、生涯を通じて学び続けなければならない。

[解説]この問題も**文頭の不定詞(目的)**を問う問題です。③ To become は「よい医師になるためには」という目的を表すので正解です。① Becoming は「～すること」という動名詞になり、② Become は命令文、④ Became は過去形となるため文意に合いません。文頭の不定詞は目的を表す基本表現であり、入試でも頻繁に出題される重要事項です。

- (50) 正解③:外国語を上手に学ぶことには、多くの時間と努力が必要である。

[解説]この問題は不定詞の名詞用法を問う問題です。To learn a foreign language well が文全体の主語となるため、③が正解です。① Learning も主語にはなりますが、本問は不定詞を選ぶ問題です。② Learn は動詞の原形、④ Learned は過去形・過去分詞であり、いずれも主語として用いることはできません。不定詞は「～すること」という名詞用法も基本事項として整理しておきましょう。

- (51) 正解③:劇場の係員は、公演中はドアを開けないよう私たちに言った。

[解説]この問題は**不定詞の否定(not to do)**を問う問題です。tell 人 not to do は「人に～しないように言う」という基本表現なので、③ not to open が正解です。①は命令文になってしまい、②は動名詞で tell の目的語補語には使えません。④ not to opening も to の後に動名詞は置けないため誤りです。否定語 not は to の直前に置くことを覚えましょう。

- (52) 正解①:その子どもは泣かないよう一生懸命努力した。

[解説]この問題は不定詞の否定を問う問題です。try not to do は「～しないよう努力する」という意味なので、① not to cry が正解です。② to not cry も見られることがありますが、入試では not to do が標準形です。③④は語順が誤っています。decide not to do、promise not to do などと同じ語順になるため、まとめて覚えておきましょう。

- (53) 正解④:生徒は遅刻しないよう努めるべきである。

[解説]この問題は不定詞の否定を問う問題です。try not to be late は「遅刻しないよう努める」という意味なので、④が正解です。①は to がなく不完全で、② to not be は会話では見られるものの、入試では標準的な not to be が適切です。③ to don't be は文法的に誤りです。否定の not は to の前に置くことが基本です。

- (54) 正解②:先生は彼らに川で泳がないように言った。

[解説]この問題は tell 人 not to do の形を問う問題です。tell 人 not to swim は「人に泳がないように言う」という意味になるため、②が正解です。①は命令文になってしまい、③ to not swim は標準的な語順ではありません。④ to swim not も語順が誤っています。ask 人 not to do、advise 人 not to do などと同じ形でよく出題されます。

- (55) 正解②:私の提案は、通り沿いにもっと多くの木を植えることである。

[解説]この問題は**不定詞の意味上の主語(for A to do)**と受動態を問う問題です。木は「植えられる」側なので、for more trees to be planted とする②が正解です。①は動名詞、③は進行形受動で文意に合わず、④ to plant では木が植える側になってしまいます。for A to do の後は、意味に応じて能動・受動を判断することが重要です。

- (56) 正解②:あなたがその川を泳いで渡るのは簡単です。

[解説]この問題は**不定詞の意味上の主語(for A to do)**を問う問題です。It is easy for you to swim across the river. は「あなたがその川を泳いで渡るのは簡単だ」という意味になるため、②が正解です。①は You are easy to ... では意味が「あなたは扱いやすい」のように変わってしまいます。③は for を to と誤って用いており、④は for が欠けているため文法的に誤りです。easy・difficult・possible・important など、事柄を評価する形容詞では It is + 形容詞 + for A to do が基本構文となるので、まとめて覚えておきましょう。

- (57) 正解③:おなかがすくと赤ちゃんが泣くのは自然なことです。

[解説]この問題は**不定詞の意味上の主語(for A to do)**を問う問題です。It is natural for babies to cry は「赤ちゃんがおなかがすくと泣くのは自然なことだ」という意味になるため、③ for が正解です。① when は接続詞であり、意味上の主語は表せません。② that を用いることもできますが、この文では babies を意味上の主語として示す必要があります。④ some は文法的に成り立ちません。natural・important・necessary・difficult などの形容詞では It is + 形容詞 + for A to do が基本構文となるので、of A to do との違いも整理して覚えておきましょう。

- (58) 正解④:あなたが彼の助言に従うことが必要です。

[解説]この問題は It is + 形容詞 + for A to do の構文を問う問題です。It is necessary for you to follow his advice が「あなたが彼の助言に従うことが必要だ」という意味になるため、④が正解です。①②は動名詞を用いた形で、この構文にはなりません。③ of you は、人の性格や行為を評価する場合に用いる前置詞なので、この文には適しません。necessary・important・possible・essential など、事柄を評価する形容詞では for を用いることが重要です。kind・careless などとの使い分けも入試頻出事項です。

- (59) 正解②:私たちが時間どおりにその計画を終えることは、とても難しかった。

[解説]この問題は It is + 形容詞 + for A to do の基本構文を問う問題です。How difficult it was for us to finish the project on time! が正しい形なので、② for が正解です。① of は人の性質や行為を評価するときに用いる前置詞であり、difficult のような事柄を評価する形容詞には用いません。③ with、④ to では文法的に成立しません。easy・difficult・

hard・possible などは for A to do を用いる代表的な形容詞なので、まとめて整理しておきましょう。

- (60) 正解②:旅行者にとってこのモバイルアプリを使うことはとても便利です。

[解説]この問題は意味上の主語を表す for の用法を問う問題です。It is convenient for travelers to use this mobile app が「旅行者がこのアプリを使うことは便利だ」という意味になるため、②が正解です。① of は人柄を評価する形容詞の場合に用いられるため不適切です。③ with、④ to もこの構文では使用できません。convenient・useful・important・necessary などは It is+形容詞+for A to do の形で頻出するため、例文ごと覚えておく効果的です。

- (61) 正解③:ガイドは私たちが彼女の声をもっとよく聞けるようにマイクを使っている。

[解説]この問題は for+意味上の主語+to 不定詞を問う問題です。マイクを使う目的は「私たちが彼女の声をよく聞けるようにすること」なので、③ for us to hear が正解です。①は動名詞で文型が成立せず、② of us はこの構文では使いません。④ in order to hear では「ガイド自身が聞くために」という意味になり、文意が変わってしまいます。意味上の主語が誰なのかを考えることが、このタイプの問題を解く最大のポイントです。

- (62) 正解③:その部屋は私たちが快適に滞在できるほど十分広い。

[解説]この問題は enough+for A to do の構文を問う問題です。The room is large enough for us to stay comfortably が「私たちが快適に滞在できるほど十分広い」という意味になるため、③が正解です。①は構文そのものが異なり、② of us は使いません。④ to stay us は語順も意味も誤っています。enough for A to do は too ... for A to do と対になる重要構文であり、意味上の主語には for を用いることを確実に理解しておきましょう。

- (63) 正解②:その箱は彼一人で運ぶには重すぎた。

[解説]この問題は too+形容詞+for A to do の構文を問う問題です。too heavy for him to carry が「彼が運ぶには重すぎる」という意味になるため、②が正解です。① of him は人の性格や行為を評価するときに使うため、この文では不適切です。③は for が欠けており、④ in order to は目的を表す表現なので意味が合いません。too ... for A to do と enough ... for A to do は必ず対比して整理し、入試で確実に得点できるようにしましょう。

- (64) 正解③:to everyone to → for everyone to

[解説]この問題は**意味上の主語(for A to do)**の誤りを見抜く問題です。正しくは for everyone to enjoy とし、「誰もが楽しめるように」という意味になります。① ensure that、② are preserved and maintained、④ enjoy はいずれも正しい表現です。意味上の主語を表す場合は to 人 to do という形にはならず、必ず for 人 to do を用います。この構文は長文読解でも頻繁に現れるため、語順ごと確実に身につけておきましょう。

- (65) 正解②:玄関のドアを一晩中開けたままにしておくとは、彼女は不注意だった。

[解説]この問題は It is+人の性質・性格+of A to do を問う問題です。careless は人の性格や行動を評価する形容詞なので、It was careless of her to leave... とする②が正解です。① for her は事柄を評価する場合に用いるため、この文には適しません。③は動名詞構文、

④は to の後に原形動詞が続いておらず文法的に誤りです。kind・careless・wise・clever・polite などは of A to do を用いる代表的な形容詞としてまとめて覚えておきましょう。

- (66) 正解④:彼が毎日病院へ祖母を見舞いに来るとは、本当に思いやりがある。

[解説]この問題は It is + 人の性質・性格 + of A to do の構文を問う問題です。

considerate は人の思いやりや性格を表す形容詞なので、It is so considerate of him... とする④が正解です。①②は He is で始めると後ろの to come を自然につなげられません。

③ for は事柄を評価する場合に用いるため不適切です。kind・careless・thoughtful・honest など、人柄を表す形容詞では of を用いることを確認しておきましょう。

- (67) 正解①:病気の人にそのようなことを言うとは、彼は思いやりがなかった。

[解説]この問題は of A to do を用いる形容詞の識別を問う問題です。heartless は「思いやりがない」という人の性格を表す形容詞なので、① of が正解です。② on、③ in、④ about はこの構文では使いません。It was heartless of him to say... は「そのようなことを言うとは彼は思いやりがなかった」という意味になります。careless・kind・polite・rude などと同じ of A to do の仲間として整理して覚えましょう。

- (68) 正解②:宿題を忘れるとは、あなたは不注意だった。

[解説]この問題は It is + 人の性質・性格 + of A to do の基本構文を問う問題です。

careless は人の行動を評価する形容詞なので、② of が正解です。① for は事柄を評価する形容詞の場合に用います。③ with、④ to はこの構文では使用できません。careless of you to forget は大学入試で頻出する表現であり、It is difficult for you to... のような for を用いる構文との違いを明確に区別できるようにしましょう。

- (69) 正解②:列車にパスポートを置き忘れるとは、彼はなんて不注意だったのだろう。

[解説]この問題は How + 形容詞 + of A to do の構文を問う問題です。careless は人の性格や行為を評価する形容詞なので、② of が正解です。① for は事柄を評価する場合に用います。③ with、④ to は文法的に誤りです。How kind of you to help me! や How careless of him to... など、感嘆文でも of A to do がそのまま用いられることを確認しておきましょう。

- (70) 正解②:パーティーのあとにお礼のカードを送ってくれるとは、彼女はなんて思いやりがあるのだろう。

[解説]この問題は How + 形容詞 + of A to do の用法を問う問題です。thoughtful は「思いやりがある」という人柄を表す形容詞なので、② of が正解です。① for は事柄を評価する場合に使われるため不適切です。③ with、④ to はこの構文では使用できません。thoughtful・kind・careful・generous など、人の性格を表す形容詞では of A to do を用いることを、感嘆文の形も含めて確実に身につけておきましょう。

- (71) 正解④:メアリーは非常に賢いので、彼女の知性について意見の食い違いが生じることはありえない。

[解説]この問題は for there to be の構文を問う問題です。for there to be any disagreement は「意見の食い違いがあること」という存在を表すため、④ there が正解で

す。① her、② it、③ me では「～が存在する」という意味になりません。there is の主語を不定詞にした形が there to be であり、expect・believe・want・too ... for などの後で頻繁に用いられます。存在を表す there が意味上の主語となる特殊な構文として、語順ごと確実に覚えておきましょう。

- (72) 正解②: 私たちは会議中に深刻な問題は起こらないだろうと予想していた。

[解説] この問題は動詞 + there to be の構文を問う問題です。expect there to be no serious problems は「深刻な問題が起こらないと予想する」という意味になるため、② there to be が正解です。① there be は to が欠けており、③ there being は動名詞構文となるためこの文型では用いられません。④ it to be では存在を表す構文になりません。expect・believe・think・know の後では there to be が頻出するので、長文読解でも素早く判断できるようにしておきましょう。

- (73) 正解②: 科学者たちは、深海にはまだ発見されていない生物種が数多く存在すると考えている。

[解説] この問題は動詞 + there to be の構文を問う問題です。believe there to be many undiscovered species で「多くの未発見の生物種が存在すると考える」という意味になるため、②が正解です。①は to がなく不完全で、③は動名詞構文、④ it to be は存在を表す構文になりません。expect・believe・consider・report などの後では there to be が頻出するため、語順ごと確実に覚えておきましょう。

- (74) 正解②: 彼は宿題を終えていたようだった。

[解説] この問題は**完了不定詞(to have done)**を問う問題です。宿題を終えた時点は seemed より前なので、He seemed to have finished his homework とする②が正解です。① to finish は主節と同時または未来を表し、③ finishing、④ finished はこの文型では用いられません。seem・appear・be said の後では、主節より前の出来事を表す場合に to have done を用いることを確認しておきましょう。

- (75) 正解②: 彼は若いころ、とても人気のある俳優だったようだ。

[解説] この問題は完了不定詞による時制の表現を問う問題です。「若いころ人気俳優だった」という内容は現在より前の出来事なので、② to have been が正解です。① to be は現在の状態を表し、③ he was、④ he has been はいずれも文の構造が成立しません。seem・appear・prove などの後では、過去の出来事を表す to have been がよく用いられることも覚えておきましょう。

- (76) 正解②: 先週あなたのお役に立ててうれしく思います。

[解説] この問題は完了不定詞の用法を問う問題です。last week とあるため、「助けた」のは現在より前の出来事です。そのため I'm glad to have helped you とする②が正解になります。①は節になっており構文が異なり、③は未来・同時、④は前置詞の後に動名詞を置いた誤った形です。glad・happy・sorry の後では完了不定詞がよく出題されるので、代表表現として整理しておきましょう。

- (77) 正解②: 被害者は誤って大量の毒を飲んだと考えられている。

[解説] この問題は**完了不定詞(to have done)**の時制を問う問題です。毒を飲んだ出来

事は is thought より前に起こっているため、② to have taken が正解です。① to take は主節と同時・未来を表し、③④は受動態となって「毒が飲まれた」という意味になってしまいます。is said to have done、is believed to have done、is reported to have done も同じ形で頻出するので、完了不定詞の代表構文としてまとめて覚えておきましょう。

- (78) 正解③: be built → have been built

[解説]この問題は**完了不定詞の受動態(to have been done)**を問う誤文訂正問題です。建物が建てられた時期は was believed より前なので、believed to have been built とする必要があります。したがって誤りは③です。① part of the base、② believed to、④ in the fifth century はいずれも正しい表現です。to have been+過去分詞 は「すでに～されていた」を表す重要表現なので、能動形との違いも整理しておきましょう。

- (79) 正解①: 少年たちはけんかをすると決めたが、少女たちはやめるよう頼んだ。

[解説]この問題は**代不定詞(to による省略)**を問う問題です。beg them not to は not to fight の fight を省略した形なので、① not to が正解です。② to not は標準的な語順ではなく、③ not、④ no だけでは不定詞の省略になりません。同じ動詞を繰り返すことを避ける場合には to を残し、否定では not to の形になることもあわせて確認しておきましょう。

- (80) 正解②: 私は彼に読むなと言ったのに、彼は私のメールを読んだ。

[解説]この問題は代不定詞の用法を問う問題です。I told him not to は not to read my e-mails の read my e-mails を省略した形なので、② not to が正解です。① it、③ so、④ to だけでは「読むな」という否定の意味を表せません。tell 人 not to do の do 以下は前に同じ内容がある場合には省略でき、否定では not to の形になることも大学入試の重要ポイントです。

- (81) 正解④: 私たちがその家を買えるかどうかは分からないが、そうできることを願っている。

[解説]この問題は代不定詞の用法を問う問題です。we hope to は hope to buy the house の buy the house を省略した形なので、④ to が正解です。① do、② it、③ that はいずれも不定詞の代用にはなりません。hope to・want to・plan to・try to などでは、同じ不定詞を繰り返さないため to のみを残す形がよく用いられるので、まとめて覚えておきましょう。

- (82) 正解②: もしあなたが望むなら、彼はあなたを手伝う用意ができています。

[解説]この問題は代不定詞の用法を問う問題です。want him to は want him to help you の help you を省略した形なので、② to が正解です。① do、③ it、④ do it はいずれも文法的に適切ではありません。ask・want・expect・persuade などの後でも、同じ内容の不定詞は to のみを残して省略できます。会話文だけでなく長文読解でも頻出するため、代表的な省略表現として語順ごと身につけておきましょう。

- (83) 正解③: 「私のパーティーに来ませんか。」「ぜひ行きたいのですが、残念ながら行けません。」

[解説]この問題は代不定詞の慣用表現を問う問題です。I'd love to. は I'd love to come to your party. の come to your party を省略した形なので、③ to が正解です。① do、② in、④ with はこの表現では用いられません。I'd like to.、I'd be happy to.、I'd

prefer to. などと同様に to のみを残して用いられます。会話問題では非常に出題頻度が高い表現なので、まとめて覚えておきましょう。

- (84) 正解②:その少年は父親のコンピューターをつけた。そうすると言われていたにもかかわらず。
[解説]この問題は**代不定詞(否定形)**の用法を問う問題です。had been told not to は had been told not to turn on his father's computer の後半を省略した形なので、② not to が正解です。① not do it、③ to do not、④ to not はいずれも語法上誤りです。tell 人 not to do の do 以下は繰り返しを避けるため not to のみを残して省略できることを、基本表現として覚えておきましょう。
- (85) 正解③:その少年は窓を開けた。母親にそうすると言われていたにもかかわらず。
[解説]この問題は**代不定詞(否定形)**の用法を問う問題です。told him not to は told him not to open the window の open the window を省略した形なので、③ not to が正解です。① don't do は命令文、② not do it、④ to not はいずれも不自然な形です。同じ内容の不定詞は not to のみを残して省略できることを、会話表現とあわせて身につけておきましょう。
- (86) 正解①:休暇中に北海道へ行きたかったが、銀行口座を見たあとで行かないことに決めた。
[解説]この問題は代不定詞の用法を問う問題です。decided not to は decided not to go to Hokkaido の go to Hokkaido を省略した形なので、① not to が正解です。② not going は動名詞、③ not to be は意味が合わず、④ not to going は文法的に誤りです。decide・hope・plan・want などでは not to の形が頻出するので、まとめて覚えておきましょう。
- (87) 正解③:その少年は窓を開けた。母親からそうすると言われていたにもかかわらず。
[解説]この問題は**代不定詞(否定形)**の用法を問う問題です。had told him not to は had told him not to open the window の後半を省略した形なので、③ not to が正解です。① don't do、② not do it、④ to not はいずれも正しい形ではありません。tell 人 not to do の形は大学入試でも繰り返し出題されるため、否定不定詞の代表表現として確実に定着させましょう。
- (88) 正解①:ジョンはまだ13歳で、運転免許を取れる年齢ではない。
[解説]この問題は enough to 構文を問う問題です。運転免許を取るには年齢が足りないので、① not old enough to が正解です。② not too young では意味が合わず、③ too old は「年を取りすぎて」、④ young enough は「十分若い」という意味になります。not 形容詞 enough to は「～するほど十分…ではない」という重要表現なので、too ... to と対比して覚えておきましょう。
- (89) 正解②:彼はそのような不誠実な候補者に投票しないだけの分別を持っている。
[解説]この問題は enough to 構文の語順を問う問題です。intelligent enough not to vote の語順が正しいため、②が正解です。①・④は enough の位置が誤りで、③も語順が不自然です。形容詞+enough+to do の形を基本とし、否定では enough not to do の語順になることまで含めて覚えておきましょう。

- (90) 正解③:その教授はあまりにも速く話したので、誰も理解できなかった。

[解説]この問題は too ... to do の構文を問う問題です。too fast for anyone to understand で「あまりにも速すぎて誰にも理解できない」という意味になるため、③ too が正解です。① little、② so、④ very では後ろの for anyone to understand と自然につながりません。too ... to do は「…すぎて～できない」を表す最重要構文として、語順ごと確実に身につけておきましょう。

- (91) 正解①:その柵はオオカミが中へ入らないようにするには十分高くなかった。

[解説]この問題は enough to 構文を問う問題です。high enough to keep the wolves out で「オオカミを締め出せるほど十分高い」という意味になるため、否定文では① high enough to が正解です。② higher than to は誤った比較表現、③ so high that can は that 節の語順が誤り、④ so high as だけでは後ろに不定詞が続けられません。形容詞+ enough+to do は「～するのに十分…だ」という最重要表現であり、too ... to や so ... that との書き換え問題でも頻出なので、語順ごと確実に身につけておきましょう。

- (92) 正解④:私は興奮しすぎて何も食べられない。

[解説]この問題は too ... to do の構文を問う問題です。too excited to eat anything で「あまりにも興奮していて何も食べられない」という意味になるため、④ too が正解です。① enough では意味が逆になり、② hardly、③ much では to 不定詞 を導くことができません。too+形容詞+to do は「…すぎて～できない」という意味を表す重要構文であり、enough to や so ... that と相互に書き換えられるようにしておきましょう。

- (93) 正解④:その窓は向こう側が見えるほどには汚れていなかった。

[解説]この問題は too ... to do の否定表現を問う問題です。not too dirty to see through は「向こうが見えないほど汚れているわけではない」、つまり「見通せる程度の汚れだった」という意味になるため、④が正解です。①～③の enough を用いた表現では、文全体の意味を適切に表せません。not too ... to は「～できないほど…ではない」という意味になり、二重否定のように見えても肯定的な内容を表すことがあるので、意味まで含めて理解しておきましょう。

- (94) 正解①:その塀は犬が入って来ないようにするには十分高くなかった。

[解説]この問題は enough to 構文を問う問題です。high enough to keep dogs out で「犬を締め出せるほど十分高い」という意味になるため、①が正解です。② so high as keep は to が必要であり、③ higher than to keep は比較表現として不適切、④ so high that can keep も that 節の語順が誤っています。enough to は「十分に～できる」、too ... to は「～すぎて…できない」と対比しながら覚えると、入試での書き換え問題にも対応しやすくなります。

- (95) 正解④:教室の生徒たちは、友達にメールを送ったり、おしゃべりをしたり、化粧を直したりするのに忙しすぎて、講義に集中できなかった。

[解説]この問題は too ... to do の語法を問う問題です。too busy to concentrate が正しい形なので、④ concentrating が誤りです。too+形容詞+to do の to の後ろには必ず動

詞の原形が続くため、to concentrating とはできません。①～③はいずれも busy sending・talking・fixing の並列として正しい形です。too ... to do の後ろは必ず不定詞になることを、基本事項として確実に定着させましょう。

- (96) 正解①: 私たちの新しい秘書は、どの管理職でも頼れるほど十分に有能だ。

[解説] この問題は enough の語順を問う問題です。efficient enough が正しい語順なので、① enough efficient が誤りです。enough は名詞の前では前置されますが、形容詞・副詞を修飾する場合は必ず後ろに置きます。②～④は for any manager to rely on の形として正しく用いられています。形容詞+enough+to do の語順は入試で非常によく問われるため、例文ごと覚えておきましょう。

- (97) 正解①: その日の午後はとても暖かかったので、私たちは厚手のコートを着る必要がなかった。

[解説] この問題は、so ... that 構文と enough to 構文の書き換えを問う問題です。so warm that we didn't have to wear は「とても暖かかったので、着る必要がなかった」という意味なので、warm enough not to wear と書き換えられ、①が正解です。②は「着られるほど暖かくなかった」、③は「暖かすぎて着られなかった」となり、元の文の「着る必要がなかった」とは意味が異なります。④では否定の意味が消えてしまいます。形容詞+enough+not to do は「～しなくてもよいほど十分…だ」という意味になることを、語順ごと覚えておきましょう。

- (98) 正解①: 大雨のあと、その川は非常に深かったので、私たちは安全に泳いで渡ることができなかった。

[解説] この問題は、so ... that 構文と not ... enough to 構文の書き換えを問う問題です。川が「深すぎて安全に泳いで渡れない」ということは、「安全に泳いで渡れるほど浅くない」と言い換えられるため、① not shallow enough to が正解です。②は「泳いで渡らないほど十分浅い」、③は「浅すぎて泳いで渡れない」となり、いずれも元の内容と一致しません。④は「泳いで渡れるほど浅い」という反対の意味になります。too deep to do = not shallow enough to do のように、反対語を用いた書き換えも入試では頻出です。

- (99) 正解①: その問題は、数分間考えても答えられないほど難しいものではなかった。

[解説] この問題は、not so ... that と not too ... to の書き換えを問う問題です。not so difficult that we couldn't answer it は「答えられないほど難しくはなかった」、つまり「答えられる程度の難しさだった」という意味なので、① not too difficult to answer が正解です。② too difficult not to answer は「答えないではいられないほど難しい」となり、意味が不自然です。③は「答えるほど十分簡単ではない」に近い内容となり、④も「答えないほど十分難しい」という誤った意味になります。not too ... to do は「～できないほど…ではない」という肯定的な内容を表す点に注意しましょう。

- (100) 正解③: 彼の演説は非常に感動的だったので、聴衆の全員が感銘を受けずにはいられなかった。

[解説] この問題は、so ... that と too ... not to の書き換えを問う問題です。so inspiring that everyone had to be impressed は「非常に感動的だったので、誰もが感銘を受けざるを得なかった」という意味です。したがって、too inspiring not to impress everyone「あ

まりにも感動的なので、全員を感動させずにはおかない」となる③が正解です。①は「感動させられないほど感動的ではない」、②は「感動させないほど十分感動的だ」となり不自然で、④は「あまりに感動的で全員を感動させられない」という反対の意味です。too ... not to do は「非常に…なので必ず～する」という強い肯定を表します。

- (101) 正解①: その少女は親切にも私を駅まで連れて行ってくれた。

[解説]この問題は so ... as to do の構文を問う問題です。so kind as to take me to the station で「親切にも私を駅まで連れて行く」という意味になるため、① as to take が正解です。② for taking は so kind に続けることができず、③ in order to take では目的を表す不自然な文になります。④は that 節の主語と時制が適切ではありません。so + 形容詞 + as to do は「～するほど…だ」、文脈によっては「親切にも～する」のように訳すことを覚えておきましょう。

- (102) 正解④: 風は、私たちのスカイダイビングを妨げるほど強くはなかった。

[解説]この問題は not so ... as to do の構文を問う問題です。not so strong as to prevent us from sky-diving で「スカイダイビングを妨げるほど強くはない」という意味になるため、④ so strong as が正解です。① as strong と② as strong as は比較の相手が必要であり、後ろの不定詞とはつながりません。③ so strong だけでも to prevent を直接続けることはできません。not so + 形容詞 + as to do は「～するほど…ではない」という重要な否定表現として、語順ごと覚えておきましょう。

- (103) 正解②: 私は、そのすばらしい美しさを否定するほど愚かではない。

[解説]この問題は not so ... as to do に続く不定詞の形を問う問題です。not so stupid as to deny で「否定するほど愚かではない」という意味になるため、② to deny が正解です。① deny では as の後ろに必要な to がなく、③ denying と④ to denying もこの構文では用いられません。as to の to は前置詞ではなく不定詞の一部なので、後ろには必ず動詞の原形が続きます。not so ... as to do の形を一まとまりとして身につけておきましょう。

- (104) 正解①: 彼は、そのような重要な約束を忘れるほど不注意ではない。

[解説]この問題は not so ... as to do と not so ... that の書き換えを問う問題です。not so careless as to forget は「忘れるほど不注意ではない」という意味なので、① not so careless that he would forget と書き換えられます。②では would not forget となり、否定が重なって元の意味と一致しません。③は「あまりに不注意で忘れられない」、④は「忘れられるほど十分注意深い」となり不自然です。as to do は that + 主語 + would do に書き換えられることを確認しておきましょう。

- (105) 正解③: 彼女は、手柄をすべて自分だけのものにするほど利己的ではなかった。

[解説]この問題は not so ... that と not so ... as to do の書き換えを問う問題です。not so selfish that she would keep は「すべての手柄を独占するほど利己的ではなかった」という意味なので、③ not so selfish as to keep が正解です。①は「独占できるほど十分利己的ではない」となり、構文の対応が不自然です。②は「利己的すぎて独占せずにはいられない」と

いう強い肯定になり、④は元の文を正しく言い換えていません。not so ... that S would do = not so ... as to do を覚えておきましょう。

- (106) 正解④:この人生というジャングルを安全に進むためには、適切な武器を身につけなければならない。

[解説]この問題は、文頭で目的を表す in order to do の用法を問う問題です。In order to go safely through this jungle of life で「この人生のジャングルを安全に進むために」という意味になるため、④が正解です。① Whoever は「誰が～しても」という複合関係代名詞であり、文の構造に合いません。② So that の後ろには主語と動詞が必要です。③ For the purpose of の後ろには名詞または動名詞が続くため、go をそのまま置けません。目的を明確に示す in order to do を語順ごと覚えておきましょう。

- (107) 正解④:私は6月の試験に合格するために、もっと一生懸命勉強するつもりだ。

[解説]この問題は、目的を表す in order to do の形を問う問題です。study harder in order to pass my exams で「試験に合格するために、より熱心に勉強する」という意味になるため、④が正解です。① so to と② for to は英語では用いられない誤った形です。③ in order that の後ろには I can pass のように主語と助動詞を含む節が必要であり、動詞の原形だけを続けることはできません。in order to do=so as to do=to do の対応もまとめて確認しておきましょう。

- (108) 正解④:彼の意見を聞くために、あなたに彼と会ってほしい。

[解説]この問題は、不定詞を用いて目的を表す表現を問う問題です。meet him in order to hear his opinion で「彼の意見を聞くために彼と会う」という意味になるため、④ in order to が正解です。① in addition は「さらに」という副詞句で、通常は in addition to の形で用います。② therefore は「それゆえに」、③ thus は「このように・したがって」という副詞であり、後ろに動詞の原形を直接続けられません。目的を明示する in order to+動詞の原形 を確実に覚えておきましょう。

- (109) 正解①:彼女は始発列車に乗り遅れないように、早く家を出た。

[解説]この問題は in order not to do と目的を表す節との書き換えを問う問題です。in order not to miss the first train は「始発列車に乗り遅れないために」という意味なので、① in order that she might not miss と書き換えられます。②は not と might の語順が逆であり、③の would not はこの文の目的を表す助動詞として不適切です。④も not might という誤った語順になっています。目的を表す節では so that/in order that+S+may・might+not+動詞 の語順を覚えましょう。

- (110) 正解①:訪問者が道に迷わないように、案内は分かりやすく書かれていた。

[解説]この問題は in order for A not to do と so that 節の書き換えを問う問題です。in order for visitors not to get lost は「訪問者が道に迷わないように」という意味なので、① so that visitors would not get lost が正解です。②は not と would の語順が逆で、③は in order that の後ろに助動詞がありません。④ had not got lost は過去完了とな

り、目的ではなくそれ以前の出来事を表してしまいます。for A to do の A は不定詞の意味上の主語であることも確認しておきましょう。

- (111) 正解①: その会社は、より多くの顧客を引きつけるために価格を下げた。

[解説] この問題は、目的を表す so as to do の用法を問う問題です。lowered its prices so as to attract more customers で「より多くの顧客を引きつけるために価格を下げた」という意味になるため、①が正解です。② so as for attracting は so as to + 動詞の原形 という語順に反しています。③ for attract も for の後ろに動詞の原形を直接置くことはできません。④ in order that の後ろには主語が必要です。so as to do はやや改まった目的表現として、in order to do とあわせて覚えておきましょう。

- (112) 正解④: 次のバスに乗り遅れないように、荷物をまとめて直ちにここを出てください。

[解説] この問題は、目的を表す不定詞の否定形 so as not to do を問う問題です。so as not to miss the next bus で「次のバスに乗り遅れないように」という意味になるため、④が正解です。① not so as to は否定語 not の位置が誤っており、② as you don't は理由や時を表す節としても文意に合いません。③ not because you も後ろに動詞がなく、目的の意味を表せません。否定不定詞では not を to の直前に置き、so as not to do の語順になることを覚えておきましょう。

- (113) 正解②: 彼を怖がらせないように、私は彼に優しく話しかけた。

[解説] この問題は、否定の目的を表す so as not to do の語順を問う問題です。spoke to him kindly so as not to frighten him で「彼を怖がらせないように優しく話した」という意味になるため、②が正解です。① to not frighten は分離不定詞として見られる場合もありますが、標準的な入試問題では not to frighten が基本です。③は to の後ろが動名詞になっており、④ for not to frighten も文法的に誤りです。in order not to do / so as not to do の語順を確実に覚えておきましょう。

- (114) 正解①: 教師は、生徒たちがより簡単に覚えられるように、指示を繰り返した。

[解説] この問題は so that S could do と so as to allow A to do の書き換えを問う問題です。教師が指示を繰り返した結果、生徒が覚えやすくなるようにしたので、① as to allow が正解です。so as to allow the students to remember で「生徒が覚えられるようにするために」という意味になります。② that allowing、③ for allowing、④ as allowing はいずれも後ろの the students to remember と正しくつながりません。allow A to do は「A が～することを可能にする」という第 5 文型の重要表現です。

- (115) 正解②: 彼は翌年に留学できるように、十分なお金を貯めた。

[解説] この問題は so as to be able to do と so that S could do の書き換えを問う問題です。主節の動詞 saved が過去形なので、目的を表す節でも過去形に対応する could を用い、② so that he could が正解です。① can は現在形で時制が一致せず、③は助動詞がないため study を続けられません。④ had を用いると過去完了となり、後ろにも過去分詞が必要です。so that S can do は現在、so that S could do は過去の目的を表すという時制の対応を覚えておきましょう。

- (116) 正解③:「ピーターはウサギを狩ります。」「ええ、私は彼がそうするのを見たことがあります。」
 [解説]この問題は知覚動詞+O+原形不定詞の用法を問う問題です。watch+目的語+原形不定詞は「人が～するところを最後まで見る」という意味になるため、③ do that が正解です。①・②・④は watch の目的語補語として to 不定詞 を用いる誤りです。see・watch・hear・feel・notice などの知覚動詞の後ろでは、動作全体を表す場合は原形不定詞を用いることを、代表的な語法として確実に覚えておきましょう。
- (117) 正解①:昨夜、私は姉があなたと電話で話すのを聞いた。
 [解説]この問題は知覚動詞+O+原形不定詞の用法を問う問題です。heard my sister talk で「姉が話すのを聞いた」という意味になるため、① talk が正解です。② talks は三人称単数現在形、③ to talk は知覚動詞の後ろでは用いません。④ be talking もこの形では目的語補語になれません。hear+O+原形 は動作全体を聞いたことを表し、hear+O+現在分詞 は動作の途中を聞いたことを表す違いも入試では頻出です。
- (118) 正解②:私は見知らぬ人がその家に入るのを見た。
 [解説]この問題は知覚動詞+O+原形不定詞の用法を問う問題です。see+目的語+enter の形で「～が入るのを見る」となるため、② enter が正解です。① be entering は現在分詞ではなく不自然な形になり、③ entered、④ to enter も目的語補語としては用いられません。enter は他動詞なので enter the house と言い、enter into the house としない点も大学入試ではよく問われる重要事項です。
- (119) 正解①:私は弟にその重い箱を2階へ運ばせた。
 [解説]この問題は使役動詞 have+O+原形不定詞の用法を問う問題です。had my brother carry で「弟に運ばせた」という意味になるため、① carry が正解です。② carried、③ carrying、④ to carry はいずれも have+O の後ろには置けません。have・let・make などの使役動詞では目的語の後ろに原形不定詞を用いることが基本であり、知覚動詞の語法とあわせて整理して覚えておきましょう。
- (120) 正解④:先生は生徒たちに同じ文を何度も繰り返させた。
 [解説]この問題は使役動詞 have+O+原形不定詞の用法を問う問題です。had the students repeat で「生徒に繰り返させた」という意味になるため、④ repeat が正解です。① repeated、② repeating、③ to repeat はいずれも have+O の後ろには続けられません。have+人+原形 は「人に～させる」、have+物+過去分詞 は「物を～してもらう」という意味になるので、両者の違いもあわせて理解しておきましょう。
- (121) 正解①:両親は真夜中以降、一人で外出することを私に許さない。
 [解説]この問題は使役動詞 let+O+原形不定詞の用法を問う問題です。let me go で「私を行かせる・外出させる」という意味になるため、① go が正解です。② went、③ going、④ to go はいずれも let+目的語 の後ろには置けません。let・make・have の後ろは原形不定詞になりますが、allow は allow+O+to do を用いるという違いも、入試では非常によく問われる重要ポイントです。

- (122) 正解②: 昨日の会議で何が起こったのか教えてください。

[解説]この問題は使役動詞 let+O+原形不定詞の用法を問う問題です。let me know は「私に知らせる」という慣用表現であり、② know が正解です。① knowing、③ to know、④ known はいずれも let+目的語 の後ろには置けません。let+O+原形不定詞 は「O に～させる・O が～するのを許す」という意味を表し、let me know は日常英会話や入試長文でも非常によく用いられる重要表現なので、そのまま覚えておきましょう。

- (123) 正解③: 姉は私が家具を新しいアパートへ運ぶのを手伝ってくれた。

[解説]この問題は help+O+原形不定詞の用法を問う問題です。help me move の形で「私が家具を運ぶのを手伝う」という意味になるため、③ move が正解です。① moved、② moving、④ to moving は文法的に誤りです。help+O+原形不定詞 と help+O+to 不定詞 はどちらも用いられますが、大学入試では原形不定詞の形も頻繁に出題されるため、両方の語法をまとめて覚えておきましょう。

- (124) 正解①: この辞書は、難しい英単語をより正確に理解する助けになるでしょう。

[解説]この問題は help+O+原形不定詞の用法を問う問題です。help you understand で「あなたが理解するのを助ける」という意味になるため、① understand が正解です。② understood、③ understanding、④ to understanding はいずれも目的語補語として適切ではありません。help+O+原形 と help+O+to do はどちらも正しい表現ですが、help+O+動名詞 は誤りになることをあわせて確認しておきましょう。

- (125) 正解①: 彼女にその理論を理解させることは不可能だ。

[解説]この問題は make+O+原形不定詞の用法を問う問題です。make her understand は「彼女に理解させる」という意味になるため、① understand が正解です。② to understand は make の後では用いられず、③ understanding、④ understood も目的語補語としては不適切です。make・have・let のような使役動詞の後ろは原形不定詞になること、ただし受動態では to 不定詞 に変わることまで含めて整理しておきましょう。

- (126) 正解①: 彼はひげのせいで 10 歳ほど年上に見えた。

[解説]この問題は make+O+原形不定詞の用法を問う問題です。made him look ten years older は「彼を 10 歳年上に見せた」という意味になるため、① look が正解です。② looked、③ looking、④ to look はいずれも make+目的語 の後ろには置けません。make+O+原形 は「O を～させる」だけでなく、「O を～のように見せる」という意味でもよく用いられるため、代表例として覚えておきましょう。

- (127) 正解②: 彼女は聴衆全員に理解してもらえよう、ゆっくり話した。

[解説]この問題は make oneself+過去分詞の慣用表現を問う問題です。make herself understood は「自分の言うことを理解してもらおう」という意味の熟語なので、② understood が正解です。① understand、③ understanding、④ to understand はいずれも受け身の意味を表せません。make oneself understood、make oneself heard、make oneself known は大学入試でも頻出する重要熟語であり、受け身の過去分詞を用いる形で含めて確実に身につけておきましょう。

(128) 正解①:彼がその部屋に入るのが見られた。

[解説]この問題は知覚動詞を用いた受動態の語法を問う問題です。能動態では see+O+原形不定詞 を用いますが、受動態になると be seen to do の形になるため、① to enter が正解です。② enter into は enter が他動詞であるため不要な前置詞を含む誤りです。③ enter は受動態では to が必要であり、④ to entering も文法的に誤っています。see・hear・watch・notice などの知覚動詞は、受動態になると to 不定詞 に変わることを入試頻出事項として覚えておきましょう。

(129) 正解②:その有名な歌手がコンサートで代表曲の一つを歌うのが聞かれた。

[解説]この問題は知覚動詞の受動態を問う問題です。能動態では hear+O+原形不定詞 を用いますが、受動態では be heard to sing となるため、② to sing が正解です。① sing は能動態でのみ用いられ、③ in singing、④ to singing はいずれもこの構文では用いられません。be heard to do、be seen to do、be watched to do などは大学入試で繰り返し出題されるため、能動態との違いを整理して覚えておきましょう。

(130) 正解②:バスの運転手が来なかったので、私たちはバスに乗る前に 30 分以上待たされた。

[解説]この問題は使役動詞 make の受動態を問う問題です。能動態では make+O+原形不定詞 を用いますが、受動態になると be made to do の形になるため、② to wait が正解です。① wait は能動態の形であり、③ waited、④ waiting も目的語補語としては誤りです。make・let・have のうち、受動態で to 不定詞 に変わるのは make であることを、知覚動詞の受動態とあわせて整理しておきましょう。

(131) 正解②:私は長い間待たされた。

[解説]この問題は make の受動態の基本形を問う問題です。was made to wait で「待たされた」という意味になるため、② to wait が正解です。① wait は能動態でのみ用いられ、③ waiting、④ waited は文法的に適切ではありません。make+O+原形不定詞 は受動態になると必ず be made to do に変化するため、to が復活することを確実に覚えておきましょう。

(132) 正解④:「アンナのことが心配です。最近ずっと落ち込んでいて、一日中部屋にいただけなんです。」「それは深刻ですね。」

[解説]この問題は All S does is+原形不定詞の慣用表現を問う問題です。All she does is stay in her room all day. で「彼女は一日中部屋にいただけだ」という意味になるため、④が正解です。①～③はいずれも All+主語+does+is+原形不定詞 の基本語順になっていません。この構文では is の後ろに to stay ではなく原形不定詞 stay を用いることが重要です。会話文や長文でもよく見られるため、語順ごと暗記しておきましょう。

(133) 正解②:あなたがしなければならないことは、皿を洗うことです。

[解説]この問題は All you have to do is+原形不定詞の構文を問う問題です。All you have to do is wash the dishes. が正しい形なので、② wash が正解です。① to washing、③ for washing、④ to be washed はいずれも is の後ろに続く形として誤っています。All you have to do is do は「するべきことは～するだけだ」という意味の重要構文であり、is の後ろは原形不定詞になることを必ず覚えておきましょう。

- (134) 正解②:あなたがしなければならないことは、皿を洗うことです。

[解説]この問題は All you have to do is + 原形不定詞の基本構文を問う問題です。is wash の形で「～するだけでよい」という意味になるため、② wash が正解です。① washing、③ for washing、④ to be washed はいずれも is の後ろには続けられません。All S has to do is do や All S does is do は大学入試で頻出する慣用構文であり、to 不定詞ではなく原形不定詞を用いる点を確実に身につけておきましょう。

- (135) 正解①:試験の結果は明日発表される予定です。

[解説]この問題は**be to do(予定)**の用法を問う問題です。are to be announced tomorrow は「明日発表される予定である」という意味になるため、①が正解です。主語 The results は複数なので are を用います。また announce は他動詞であり、「結果が発表される」という受け身の意味になるため to be announced が必要です。②・③・④はいずれも主語との一致や受動態の形が誤っています。be to do は「予定・義務・可能・運命」など多くの意味を表す重要構文なので、文脈から判断できるようにしておきましょう。

- (136) 正解④:その会社の社長は今日、新しい店舗が来年建設される予定であると発表した。

[解説]この問題は**be to do(予定)**と受動態を組み合わせた用法を問う問題です。新しい店は「建設する」のではなく「建設される」側なので、④ to be built が正解です。① building は現在分詞、② built は単独では文が成立せず、③ to be building は進行中の意味となり文意に合いません。be to be + 過去分詞 は「～される予定である」という意味を表す重要表現として覚えておきましょう。

- (137) 正解③:私たちは5月に結婚する予定だったが、その結婚式は6月まで延期しなかった。

[解説]この問題は**be to do(予定)**の過去形を問う問題です。were to be married は「結婚する予定だった」という意味になるため、③が正解です。① are married は現在の状態、② were married は「結婚していた」、④ will be married は未来の予定を表し、後半の had to postpone と時制が一致しません。was / were to do は「～する予定だった」という過去の予定を表すため、入試では頻出の表現です。

- (138) 正解①:A「アパートは借りましたか。」 B「いいえ。借りる予定だったのですが、その計画は実現しませんでした。」

[解説]この問題は be to have done の用法を問う問題です。were to have rented は「借りる予定だったが、実際には借りなかった」という実現しなかった予定を表すため、①が正解です。② are to have rented は時制が合わず、③ are to rent は現在・未来の予定、④ should rent は「借りるべきだ」という義務の意味になります。was / were to have done は「～する予定だったが実現しなかった」という大学入試で非常によく問われる重要表現として、必ず覚えておきましょう。

- (139) 正解②:すべての応募者は、今月末までに記入済みの申込書を提出することになっています。

[解説]この問題は**be to do(義務・指示)**の用法を問う問題です。are to submit は「提出することになっている」「提出すべきである」という意味になるため、②が正解です。① are

submitting は進行形、③ have submitted は現在完了、④ will have submitted は未来完了であり、規則や指示を表す文には適しません。be to do は「予定」だけでなく、「義務・指示」を表すことも大学入試では非常に重要です。文脈から意味を判断できるようにしておきましょう。

- (140) 正解③:図書館に入るときは、いつでも学生証を携帯しなければなりません。

[解説]この問題は**be to do(義務・規則)**を問う問題です。are to carry は「携帯することになっている」「携帯しなければならない」という意味になるため、③が正解です。① carry では述語動詞がなく文が成立せず、② are carrying は進行形、④ have carried は現在完了で文意に合いません。学校や公共施設の規則を示す場合には be to do がよく用いられます。must や have to との意味の違いも整理しておきましょう。

- (141) 正解①:各講座の説明の後に記載された受講料は、第1回の授業で担当講師へ支払うことになっています。

[解説]この問題は be to do(指示・規則)と受動態を問う問題です。受講料は「支払う」のではなく「支払われる」側なので、① are to be paid が正解です。② are to pay は主語が料金なので意味が不自然です。③ is being paid は主語と動詞が一致せず、④ is paying も誤りです。be to be + 過去分詞 は「～されることになっている」という重要表現なので、受動態とセットで身につけておきましょう。

- (142) 正解④:もしあなたが自分の願いを実現しようというのであれば、想像力を働かせなければならない。

[解説]この問題は**be to do(意図・目的)**の用法を問う問題です。are to realize は「実現しようとするなら」「実現するつもりなら」という意味になるため、④が正解です。① realize は be の後ろに置けず、② being realized は受動進行形、③ realized は形容詞的になり文意に合いません。If S is to do は「もし～するつもりなら」という意味で入試でも頻出する重要構文です。

- (143) 正解③:もしあなたが夢をかなえるつもりなら、もっと一生懸命勉強しなければならない。

[解説]この問題は**be to do(意図・目的)**を問う問題です。are to realize your dream は「夢を実現しようというのであれば」という意味になるため、③が正解です。① are realized は受動態、② are realizing は進行形、④ would be realize は文法的に誤っています。If S is to do は助言や条件を述べる英文で非常によく使われる表現です。構文全体をそのまま覚えておきましょう。

- (144) 正解④:もしあなたが夢をかなえようというのであれば、想像力を働かせなければならない。

[解説]この問題は**be to do(意図・目的)**の確認問題です。are to realize your dreams が「夢を実現するつもりなら」という意味になるため、④が正解です。① realize は be の後ろに続けられず、② being realized、③ realized も文法的・意味的に適切ではありません。be to do は「予定」「義務」だけでなく、「目的・意図」も表す多義表現です。文脈によって意味を判断できるように整理しておきましょう。

- (145) 正解③:家へ帰ると、財布はどこにも見当たらなかった。

[解説]この問題は**be to be found(見つかる)**という be to do の可能の用法を問う問題です。was nowhere to be found は「どこにも見つからなかった」という慣用表現なので、③が正解です。① find、② finding、④ to find はいずれも受動の意味を表せません。nowhere to be found は長文読解や会話文でも頻出する重要表現です。まとまりごと覚えておきましょう。

- (146) 正解③:その事故は突然の地震によるものだったので、だれも責められなかった。

[解説]この問題は be to blame の慣用表現を問う問題です。be to blame for ... は「…の責任がある」「…のことで責められるべきだ」という意味になるため、③が正解です。① blame、② blaming、④ blamed はこの慣用表現にはなりません。be to blame は受け身ではなく、形は能動でも受け身の意味を表す特殊な表現です。大学入試では非常によく出題されるため、そのまま熟語として定着させましょう。

- (147) 正解③:この決定は、その後思いがけない形で会社の将来に影響を与えることになった。

[解説]この問題は**be to do(運命・未来の成り行き)**の用法を問う問題です。was to influence は「後に～することになる」「結果として～する運命にあった」という意味になるため、③が正解です。① have influenced は主語と動詞が一致せず、② to influence は述語動詞がなく、④ is being influenced は受動態で文意に合いません。be to do は後から振り返って「その後～することになった」という運命や成り行きを表す重要表現として覚えておきましょう。

- (148) 正解②:この角では、その後何年にもわたって語り継がれることになる事故が起こった。

[解説]この問題は**be to do(運命)**と受動態を組み合わせた用法を問う問題です。事故は「人々によって記憶される」側なので、was to be remembered が「後に長年語り継がれることになった」という意味になり、②が正解です。① remembered は述語として不完全であり、③ has remembered は主語が事故なので意味が不自然です。④ was to have been remembered は「実現しなかった予定」を表す形で文意に合いません。be to be + 過去分詞が運命を表す形も重要事項です。

- (149) 正解②:料理はおいしく、言うまでもなくワインもすばらしかった。客たちはきっとパーティーを楽しんだに違いない。

[解説]この問題は独立不定詞 to say nothing of の慣用表現を問う問題です。to say nothing of A は「A は言うまでもなく」「A はもちろん」という意味なので、②が正解です。① the less、③ on behalf of (～を代表して)、④ as far as (～する限り)では文意が成立しません。to say nothing of は追加説明を行う際の頻出表現であり、熟語としてそのまま覚えておきましょう。

- (150) 正解②:彼は英語はもちろん、ドイツ語とフランス語も知っている。

[解説]この問題は to say nothing of の定型表現を問う問題です。to say nothing of English で「英語は言うまでもなく」という意味になるため、② nothing が正解です。① anything、③ not at all、④ more than を入れても慣用表現にはなりません。to say

nothing of = not to mention は「～はもちろん」という意味を表す代表的な独立不定詞なので、まとめて覚えておきましょう。

- (151) 正解①: うそをつくことは、控えめに言っても悪い習慣である。

[解説] この問題は to say the least の慣用表現を問う問題です。to say the least は「控えめに言っても」「少なくとも」という意味なので、① least が正解です。② worst、③ less、④ worse はいずれも決まった表現にはなりません。実際には「実際はもっとひどいが、控えめに言えば」という含みを持つ表現であり、会話文や評論文でもよく見られる重要熟語です。

- (152) 正解①: 彼に対するあなたの評価は、控えめに言っても少し高すぎます。

[解説] この問題は to say the least の確認問題です。to say the least は「控えめに言っても」という意味になるため、① least が正解です。② less、③ more、④ much を入れても慣用句にはなりません。この表現は、実際には「かなりそうだ」という気持ちをやわらかく述べる際によく使われます。英文では非常に頻出なので、意味だけでなく語順もそのまま覚えておきましょう。

- (153) 正解④: 友人を批判するのは気が進まないが、控えめに言っても、彼には清潔感が欠けている。ほとんど入浴しないのだ。

[解説] この問題は独立不定詞の慣用表現を問う問題です。後半では「控えめに言っても」という意味が最も自然なので、④ to say the least が正解です。① not to mention は「～はもちろん」、② to make both ends meet は「やりくりする」、③ to say nothing は慣用表現として不完全です。to say the least は否定的な評価を控えめに述べる際の代表的な表現として定着させましょう。

- (154) 正解③: 言うまでもなく、世界平和はすべての人々にとって望ましい。

[解説] この問題は Needless to say の慣用表現を問う問題です。Needless to say は「言うまでもなく」という意味の独立不定詞なので、③ Needless が正解です。① When it comes、② Why don't you、④ Quite a few はいずれも文意に合いません。Needless to say は論説文や英作文でも非常によく使われる表現です。語順を含めてそのまま覚えておきましょう。

- (155) 正解②: ジョンは昨年、多くの授業に落第した。言うまでもなく、彼はもっと勉強すべきだ。

[解説] この問題は Needless to say の慣用表現を問う問題です。Needless to say は「言うまでもなく」という意味の独立不定詞であるため、② Needless が正解です。① Needed、③ Necessary、④ Necessity はいずれも決まった表現にはなりません。Needless to say は、当然のことを改めて強調するときに用いられる入試頻出表現です。語順ごとまとめて覚えておきましょう。

- (156) 正解①: 言うまでもなく、彼はその賞を受賞できなかった。

[解説] この問題は Needless to say の語句完成問題です。Needless to say が「言うまでもなく」という決まった表現なので、① say が正解です。② speak、③ talk、④ hear を用いる慣用表現は存在しません。独立不定詞は一語だけでなく、Needless to say のように一まと

まりの表現として覚えることが重要です。入試でも繰り返し出題される重要熟語として定着させましょう。

- (157) 正解③: 奇妙なことに、私はそのミュージカルをあまり楽しめなかった。

[解説]この問題は Strange to say の独立不定詞を問う問題です。Strange to say は「奇妙なことに」「不思議なことに」という意味を表す慣用表現であるため、③ to say が正解です。

① said、② saying、④ say はいずれも決まった形になりません。Strange to say は文全体に対する話し手の評価を表す独立不定詞であり、熟語としてそのまま覚えておきましょう。

- (158) 正解④: 私たちの英語の先生は、いわば「歩く辞書」です。

[解説]この問題は so to speak の慣用表現を問う問題です。so to speak は「いわば」「言ってみれば」という意味を表す独立不定詞なので、④ speak が正解です。① think、② talk、③ hear はいずれも決まった表現ではありません。比喩的な表現を用いる際によく使われる重要熟語であり、会話文・長文ともによく見られます。語順をそのまま覚えておきましょう。

- (159) 正解③: さらに悪いことに、彼は足を骨折したあと肺炎にもかかった。

[解説]この問題は To make matters worse の慣用表現を問う問題です。To make matters worse は「さらに悪いことに」という意味になるため、③ make—worse が正解です。① give—pause、② take—bad、④ put—double はいずれも存在しない表現です。悪い出来事が重なることを述べる際によく用いられる独立不定詞であり、長文読解でも頻出する重要表現として覚えておきましょう。

- (160) 正解②: ガソリンがなくなり、そのうえさらに悪いことに、雪まで降り始めた。

[解説]この問題は To make matters worse の完成問題です。To make matters worse は「さらに悪いことに」という意味を表す決まった表現なので、② make が正解です。① have、③ get、④ take を用いる慣用句にはなりません。matters は「事態・状況」という意味であり、この表現全体で副詞句のように文全体を修飾します。語順ごとまとめて覚えておきましょう。

- (161) 正解②: さらに悪いことに、雨まで降り始めた。

[解説]この問題は To make matters worse の確認問題です。To make matters worse が「さらに悪いことに」という意味になるため、② make が正解です。① do、③ become、④ get はいずれも慣用表現にはなりません。To make matters worse は、悪い状況にさらに悪い出来事が加わることを述べる際の代表的な独立不定詞です。大学入試では非常によく出題されるため、一まとまりの表現として確実に覚えておきましょう。

- (162) 正解②: 実を言うと、私はまだ宿題を終えていません。

[解説]この問題は独立不定詞 To tell the truth の慣用表現を問う問題です。To tell the truth は「実を言うと」「正直に言うと」という意味になるため、② tell が正解です。① say、③ speak、④ mention を用いた表現は慣用句として成立しません。会話文や英作文でも非常によく用いられる表現であり、To be honest とあわせて重要な独立不定詞として、語順ごと覚えておきましょう。

(163) 正解①: 公平に言えば、彼女はそのようなことをするような女性では決してない。

[解説]この問題は To do A justice の慣用表現を問う問題です。To do her justice は「彼女を公平に評価すれば」「公平に言えば」という意味になるため、① To do が正解です。② Doing、③ Do、④ Done はいずれも独立不定詞としては用いられません。do A justice は「A を正当に評価する」という意味の重要表現であり、独立不定詞として文頭で使われる形をまとめて覚えておきましょう。

(164) 正解②: 彼女はとても質素で、けちと言ってもよいほどだ。

[解説]この問題は not to say の慣用表現を問う問題です。not to say A は「いやむしろ A と言ってよい」「A とまでは言わないが」という意味になるため、② say が正解です。① remark、③ speak、④ tell を用いた表現は慣用句にはなりません。not to mention や to say nothing of と混同しやすいので、それぞれの意味の違いも整理して覚えておきましょう。

(165) 正解②: 翌朝まで待つ以外にすることは何もなかった。

[解説]この問題は nothing to do but do の構文を問う問題です。There is nothing to do but wait は「待つしかない」という意味になるため、② but が正解です。① as、③ that、④ with ではこの構文は成立しません。but の後ろには to wait ではなく原形 wait を用いることが重要です。have no choice but to do とあわせて、入試頻出構文として整理して覚えておきましょう。

(166) 正解①: 母親の死を聞いたとき、彼は泣くことしかなかった。

[解説]この問題は do nothing but do の構文を問う問題です。did nothing but weep は「泣いてばかりいた」「泣くしかなかった」という意味になるため、① but が正解です。② as、③ that、④ to はいずれもこの構文では用いられません。do nothing but + 原形不定詞 は nothing to do but do と並ぶ重要表現です。but の後ろは原形になることをまとめて覚えておきましょう。

(167) 正解③: 列車はまもなく発車しますので、黄色い線の内側でお待ちください。

[解説]この問題は be about to do の慣用表現を問う問題です。be about to leave は「今にも～しようとしている」という意味になるため、③ to leave が正解です。① leave、② leaving、④ left は about の後ろには続けられません。be about to do は「まさに今～しようとしている」という直前の未来を表す重要表現です。be going to do との意味の違いもあわせて整理しておきましょう。

(168) 正解③: 今夜遅くには天気はさらに悪くなりそうです。

[解説]この問題は be likely to do の用法を問う問題です。is likely to get worse は「悪くなりそうだ」という意味になるため、③ to get が正解です。① get、② getting、④ got はいずれも likely の後ろには置けません。be likely to do は「～しそうだ」という意味を表す重要構文であり、be likely that S V への書き換えも入試でよく問われます。

(169) 正解③: 学生は常に学生証を携帯していることになっています。

[解説]この問題は be supposed to do の慣用表現を問う問題です。are supposed to carry は「～することになっている」「～すべきである」という意味になるため、③ to carry が正

解です。① carry、② carrying、④ carried は文法的に誤りです。be supposed to do は規則・義務・期待を表す重要表現であり、be expected to do や be to do との違いも整理しておきましょう。

- (170) 正解③:参加者全員は9時までに会議に到着することを期待されています。

[解説]この問題はbe expected to doの用法を問う問題です。are expected to arriveは「到着することが期待されている」という意味になるため、③ to arriveが正解です。① arrive、② arriving、④ arrivedはexpectedの後ろには続けられません。be expected to doは「期待される」「予定されている」という意味で、案内文や説明文にもよく現れる重要表現です。まとめて覚えておきましょう。

- (171) 正解③:救助隊は緊急通報を受けると、すぐに行動できる準備ができていた。

[解説]この問題はbe ready to doの用法を問う問題です。was ready to actは「すぐに行動する準備ができていた」という意味になるため、③ to actが正解です。① act、② acting、④ actedはいずれもreadyの後ろには置けません。be ready to doは「～する用意ができている」という意味を表す基本表現であり、英作文でも頻繁に使われるので語順ごと覚えておきましょう。

- (172) 正解③:その失敗の責任を進んで引き受けようとする人はほとんどいない。

[解説]この問題はbe willing to doの用法を問う問題です。are willing to acceptは「進んで受け入れる」「喜んで引き受ける」という意味になるため、③ to acceptが正解です。① accept、② accepting、④ acceptedはwillingの後ろには続きません。be willing to doは「喜んで～する」という意味の頻出表現です。be reluctant to do(～したがる)などの類義表現もあわせて覚えておきましょう。

- (173) 正解③:大雪のため、多くの便が予定どおり出発できなかった。

[解説]この問題はbe unable to doの用法を問う問題です。were unable to departは「出発できなかった」という意味になるため、③ to departが正解です。① depart、② departing、④ departedはunableの後ろには置けません。be unable to doはcannotの言い換えとして入試でも頻出です。be able to doと対にして整理しておきましょう。

- (174) 正解③:両親は、私に外出する前に宿題を終えてほしいと思っている。

[解説]この問題はwant+O+to doの用法を問う問題です。want me to finishは「私に宿題を終えてほしい」という意味になるため、③ to finishが正解です。① finish、② finishing、④ finishedはwant+目的語の後ろには置けません。want・expect・ask・allow・tellなどはO+to不定詞を取る代表的な動詞です。語法ごとまとめて覚えておきましょう。

- (175) 正解③:先生は、翌週までに全員の生徒が課題を終えることを期待していた。

[解説]この問題はexpect+O+to doの用法を問う問題です。expected all the students to completeが「全員の生徒が課題を終えることを期待していた」という意味になるため、③ to completeが正解です。① complete、② completing、④ completedはい

ずれも expect+O の後ろには続けられません。expect O to do は大学入試で最も頻出の O+to 不定詞 の一つです。例文ごと確実に身につけておきましょう。

- (176) 正解④:先生は私たちに、毎日の授業で積極的に議論に参加するように求めた。

[解説]この問題は ask+O+to do の目的語を問う問題です。asked us to take の形が正しく、「私たちに～するよう頼んだ」という意味になるため、④ us が正解です。① we は主格、② our は所有格、③ ours は所有代名詞であり、いずれも目的語にはなりません。ask・tell・advise・encourage などの後ろには目的格+to 不定詞を用いることを確実に覚えておきましょう。

- (177) 正解③:先生は生徒たちに金曜日までにレポートを終えるよう助言した。

[解説]この問題は advise+O+to do の語法を問う問題です。advised the students to finish が正しい形なので、③ to finish が正解です。① finish、② finishing、④ finished は advise+目的語 の後ろには続けられません。advise O to do は「Oに～するよう助言する」という重要構文です。persuade O to do など類似表現もまとめて覚えておきましょう。

- (178) 正解③:両親は彼に夜遅く外出することを許さなかった。

[解説]この問題は allow+O+to do の用法を問う問題です。allow him to stay が「彼が外出することを許す」という意味になるため、③ to stay が正解です。① stay は let の場合に用いられる形であり、② staying、④ stayed も誤りです。allow O to do と let O do は意味は似ていますが、語法が異なるため区別して覚えておきましょう。

- (179) 正解④:先生は私たちに、毎日の授業で積極的に議論へ参加するように励ました。

[解説]この問題は encourage+O+to do の目的語を問う問題です。encouraged us to take が正しい形となるため、④ us が正解です。① we、② our、③ ours はいずれも目的語には用いられません。encourage・persuade・invite・force などは 目的格+to 不定詞 を取る代表的な動詞です。目的格を用いることまで含めて整理して覚えておきましょう。

- (180) 正解②:警察は、その事故では重大なけが人はいないだろうと考えていた。

[解説]この問題は there を意味上の主語とする O+to 不定詞の構文を問う問題です。expected there to be が「～があると予想した」という形になるため、② there to be が正解です。① there being は動名詞構文、③ there was は節になってしまい、④ there be も文法的に誤りです。expect・want・believe などの後ろでは there to be が頻出です。構文ごと覚えておきましょう。

- (181) 正解③:会議が終わる前に、十分な話し合いの時間があってほしいと思っていた。

[解説]この問題は want+there+to be の構文を問う問題です。wanted there to be enough time が「十分な時間があってほしい」という意味になるため、③ there to be が正解です。① there being は動名詞、② there be は不定詞になっておらず、④ there was は節になってしまいます。there to be は意味上の主語 there を用いる重要構文です。expect・want・believe とあわせて頻出表現として定着させましょう。